

パリ日本人学校における本物と出会う豊かな体験活動

前パリ日本人学校 教頭

新潟県加茂市立下条小学校 教頭 佐藤 義朗

キーワード：在外教育施設，フランス，国際交流，体験活動

1. はじめに

ヨーロッパ大陸の西側に位置するフランス共和国は、食料自給率120%を超える豊かな農業国であり、35の世界遺産を誇る国である。首都パリは、美術館や凱旋門、シャンゼリゼ通りなど、文化・芸術の都、世界一の客数を誇る観光都市として知られている。

日仏文化学院パリ日本人学校は、1973年にセーヌ河をはさんで、エッフェル塔の対岸のトロカデロに開校した。その後、児童生徒数の増加に伴い1990年にパリから西へ20キロ離れたサンカンタンに移転し、現在に至っている。校舎近郊には、ベルサイユ宮殿がある。日仏文化学院とは、日本とフランスの文化の交流を意としており、その一環として日本人子女の教育が行われている。平成25年4月現在、児童生徒数、小学部172名、中学部37名、派遣教員13名、現地採用講師・養護・事務職員9名の学校である。



【パリ日本人学校校舎】

まさに芸術の校舎。四季折々の美しい姿を見せてくれます。

2. パリ日本人学校について

(1) 概要

- ・文部科学省の認定校として、日本国の学校教育法及び関係法規や校則に従って、日本語による初等・中等普通教育を実施
- ・日本とフランス共和国間の文化・教育交流を図り、相互理解を深め合う教育活動にも重点をおいた教育を展開
- ・人間尊重の精神に徹し、一人ひとりの子どものもつ無限の可能性を伸ばす営みの推進

(2) 学校教育目標

校訓 「明るく、仲よく、たくましく」「心のふるさと」となる“あなた”を大切にす学校

目標 学ぶ喜びと誇りをもち、自らを鍛え、共に伸びようとする児童・生徒の育成

(3) 重点事項

「確かな学力の育成」「たくましい心身の育成」「国際人を育成する教育の推進」「特別支援教育の充実」「生命財産を守る危機管理の徹底」「施設・設備の充実と活用」「実践的研究・研修の充実と指導力の向上」「効率的な校務運営」「開かれた学校づくり」「児童・生徒数の確保」「財政運営の効率化と安定化」

(4) 学期、休業日

3学期制 土曜、日曜、フランスの祝祭日、日本の天皇誕生日は休業日

2. 特色ある豊かな体験活動

「学校の教育課程に日本人学校独自の、また、フランスならではの本物の体験活動を取り入れたい」との思いから、小学部1年生から中学部3年生まで、数多く社会見学や体験活動を実施している。

小学部の生活科では、サンカンタン池公園（四季の観察）・ボアダルシーの森（栗拾い）などを散策し、地域の自然を満喫している。また、ルーブル、オルセー、オランジェリー、ポンピドゥー、ロダン等の美術館の見学

や名画の模写を行い、国際機関と歴史的建造物では、ユネスコ本部、ベルサイユ宮殿の庭園（春の全校遠足）に出かけている。

中学部の職業体験学習では、OECD日本政府代表部、NHKヨーロッパ総局、全日空、BOOK OFFパリ、UNIQLOパリオペラ店等に赴き話を聞いたり、業務の一部を実際に体験したりして進路選択の一助としている。

また、フランスは豊かな自然を生かしたアウトドアスポーツが盛んな国である。そこで宿泊体験活動を設け、5,6年生の西仏大西洋での4日間のヨット体験、中学部では各5日間を使い、1,2年生の南仏地中海でのヨット体験とフランスアルプス、トロワバレー、クールシュベルスキー場でのスキー体験、中学部3年の南仏プロバンス地方の修学旅行を行っている。この様に本物と直接触れ、五感で感じる活動を実施することで、子どもたちの感性を磨いている。

フランスの子どもたちとの交流も盛んである。フランスの学校は、国際理解教育という感覚がないことや授業時数確保の理由から（水、土、日曜日が休業日。ただし、2013年から政府の方針で水曜日を授業日としている各行政区も有。年間授業日数約150日）、現地の学校と交流活動を行うことが容易でない現状がある。そこで、小学部では現地校が休みの水曜日に福祉施設（日本の児童館に相当）であるマネセンター、ポールフォール、アレクサンドルデュマ、レプレ校（現地の学校）、セットマレ高校（日本語を専攻している高校生と本校の小学部1,2年生が交流）と訪問・受け入れの交流を、中学部では、レプレ校の葡萄収穫祭への参加、アメリカンスクールオブパリとのバスケットボール交流等を行っている。子どもたちは週2-3時間授業で習っているフランス語を駆使し、現地の子どもたちと交流している。この様に異なる文化をもった人と交流をすることで、コミュニケーション能力の育成を図っている。

3. 本物と出会う体験活動例

(1) 小学部

①社会見学

月	学年	教科等	行き先(内容)
4月	1,2年	生活	サンカンタン池公園(春を発見)
5月	4年	社会	サンカンタン消防署(消防署で働く人)
5月	5年	図工	オランジュリー美術館(美術鑑賞 模写)
5月	3年	社会	サンカンタン・アン・イヴリーヌ県巡回 市役所等(地域の施設訪問)
6月	4年	社会	パリ下水処理場 下水道(公共施設見学)
6月	6年	社会	自然史博物館(歴史を学ぶ)
7月	1年	生活	パリ5区植物園内動物園(動物園見学)
7月	2年	生活	サンカンタン駅・商店街(町の様子)
7月	3年	社会	山下農園(農業に携わる人)
10月	1,2年	生活	ボアダルシーの森(秋を発見 栗拾い体験)
10月	6年	図工	ポンピドゥー近代美術館(美術鑑賞)
10月	2年	生活	サンカンタン商店街(買い物)
11月	4年	図工	オルセー美術館(美術鑑賞 模写)
11月	1年	生活	ガリ農園【ベルサイユ宮殿隣】(動物とのふれあい)
11月	3年	図工	ロダン美術館 または ブルーデル美術館(美術鑑賞)
1月	5年	社会	NHKヨーロッパ総局(情報のしくみ)
1月	6年	社会	ユネスコ本部, ギメ美術館

②「JAL そらいく」 5,6年生を対象に、JALパリ支店主催のもと、JALの機長を招き、地球環境講座、職業講座等の講座を開催。

③「ANA 夢先生～ユメセン～」 5年生を対象に、全日空パリ支店の主催のもと「夢に向かって突き進んでいる人の講座」を開催。平成24年度は、元プロサッカー選手、長谷川健太氏を講師に迎える。

- ④「NTT ドコモ ケータイ安全教室」 NTTドコモ主催により、5、6年生を対象に、携帯電話・スマートフォンの正しい使い方について学ぶ。

また、全校児童生徒対象に、ヨーロッパで活躍する音楽家を招き演奏会を聴く。



【現地校交流，ランチタイム】

日本人はお弁当。フランス人は、バケット、ポテトチップス、くだものです。食に関する異文化理解です。

(2) 中学部

①社会見学

春 ア・「黒田清輝のゆかりの地を訪ねて」 グレー・シュル・ロワン（黒田清輝通り・スケッチの場所）

・「ミレーのゆかりの地を訪ねて」 バルビゾン（ミレーの家・ガンヌおじさんの家・「晩鐘」が描かれた場所） フォンテーヌブロー城付近。

イ・「モネのゆかりの地を訪ねて」（ジベルニー，ラ・ロッシュ・ギヨン）

ウ・「ヴァン ゴッホのゆかりの地を訪ねて」（オーヴェル・シュル・オワーズ，ラヴー亭）

※上記の著名な画家ゆかりの3つの地域を3年周期で訪問。

秋 パリ市内の博物館 美術館 等

朝ルーブル美術館 ピラミッド前に集合。1、2、3年生の3グループでグループ行動開始

夕方ルーブル美術館 ピラミッド前で解散（以下、平成25年度の社会見学ルート）

・1年 アンヴァリッド見学→ロダン美術館見学・昼食→オルセー美術館見学

・2年 ルーブル美術館見学→リュクサンブール公園・昼食→国立自然史博物館 見学

・3年 パリ市庁舎→カルナヴァレ博物館見学→ヴォージュ広場・昼食→ポンピドゥー国立近代美術館見学→シテ島，サン・ルイ島散策

②職業体験

実際の職場を訪問・見学し、仕事を体験することにより、「働く」ことに対する考えを深め、自分に合った進路の主体的選択の一助とし、「自ら課題を見つけ、考え、解決する力」を養っている。

1月の1日を使い、パリ市内と近郊の政府機関や企業、幼稚園保育園等を体験先としている。以下、訪問先。

OECD 日本政府代表部 NHK ヨーロッパ総局 ユネスコ本部 BOOKOFFパリオペラ座店

La Pomponnette（パリ日本人学校御用達の弁当屋） エベイユ学園（保育園幼稚園）

文化教養学園幼稚園パリ園等

(3) 小中学部共通

①体験入学 フランスの現地校等へ通っている児童生徒が、転入学をせずに、日本人学校の教育を体験する制度。年に2回（7月，2月）現地校のバカンス期間に3週間行っている。（平成25年度 夏季体験入学者 27人 冬季体験入学者14人）フランスの現地校に通っている子どもは、日本の教育を受け、日本の文化を学ぶことができる。また日本人学校の子どもたちは、体験入学の児童生徒からフランスの学校のことや文化等を学びお互いに刺激を受けている。

②「坂本 達」講演会 ～夢 その先に見えるもの～ 平成23年10月20日に開催 パリ日本人学校の先輩でもある坂本氏。4年3ヶ月、55000キロの自転車世界一周中にマラリアと赤痢に倒れた時、最後の薬で命を救ってくれたギニアのドクターへ「恩返し」の井戸を掘るプロジェクトを発足。資金も知識もネットワークもない坂本氏が、人と人とのつながりにより不可能を可能にさせた物語に感銘を受ける。

③「野口聡一宇宙飛行士」講演会 創立40周年記念講演会として、JAXA（宇宙航空研究開発機構）パリ駐在員事務局の協力を得て、平成25年7月8日に開催。JAXAの仕事や野口宇宙飛行士の宇宙にかけるロマンに

ついでの話聞き、子どもたちの夢は世界そして宇宙へと大きく広がった。

3. 成果と課題

(1) 成果

新学習指導要領に「体験活動の充実」があげられている。近年、都市化や少子化、人間関係の希薄化などが進む中で、多くの人や社会、自然などと直接ふれあう様々な体験の機会が乏しくなっている。さらに情報化社会が発達した今日、バーチャルな「間接体験」が増え、自分の身体を通して実際に経験する「直接体験」が減少してきた。まして在外教育施設で学ぶ子どもたちにとって、このことは国内の学校以上に大きな課題である。「直接体験」「本物体験」は子どもたちの豊かな成長に欠かせない。フランスは世界でも有数の美術館、博物館、寺院や豊かな自然等があり、まさに本物とふれあうことのできる国である。パリ日本人学校は、ピンチをチャンスと捉え、地の利を活かしこの課題を克服している。以下、本校中学部2年（平成23年度）の生徒の作文を紹介する。

「誇れる学校」

（朝日新聞中学生ウィーク「世界の街からこんにちは」平成23年6月5日掲載）

日仏文化学院パリ日本人学校。これは私が2年前から通っている学校の名前だ。パリの郊外にあり、全校児童生徒の多くがバスで通学している。学校の規模は大きくなく、中学生と小学生が同じ校舎で勉強している。そのおかげか、みんな優しく友達を思いやることのできる温かい心を持っている。私はこの学校が大好きだ。パリ日本人学校は、名前の通り日仏の文化を大切にしている。だから日仏の文化交流を目的とする行事がたくさんある。まず一つは、ヨット体験を中心とした4泊5日の体験学習だ。昨年度は西仏に行き、今年は南仏に行った。南仏ではヨットやVTT（マウンテンバイク）をしてフランスの自然に触れ、現地の小学生と交流して文化を学んだ。二つ目は現地校交流。フランスの学校に行き授業を見学したり一緒に参加したりした。また、一番印象深かった交流は、校内にぶどう園がある学校を訪問し、一緒にぶどうを収穫してぶどうジュースを作ったことだ。この交流はとてもフランスらしくて楽しかった。また、フランスの中学生に来てもらって折り紙や習字、羽根つきなどの文化を教える交流もある。フランスで日本の漫画が流行している影響で日本語を話すフランス人もいて、とても楽しい。

パリ日本人学校は、これら以外にもたくさんの行事があり、日本ではすることのできない経験ができる。そして全学年一クラスと児童生徒の人数が少ないため、責任ある仕事を任される機会が増え、人前に立つことが多くなり、積極性を伸ばすことができる。これらのことは将来の自分のためにも日本のためにも必要なことだと思う。こんなパリ日本人学校は素晴らしい。この日仏文化学院パリ日本人学校に通っているということを私は誇りに思う。

(2) 課題

地球規模の環境破壊、エネルギーや水などの資源保全が問題化されている現代において、人類が現在の生活レベルを維持し発展することが重要な課題である。持続発展教育（Education for Sustainable Development: ESD）は、これらの地球上の問題について、自らの考えをもって、新しい社会秩序を作り上げていこうとする、地球的な視野をもつ市民を育成するための教育である。今後、実授業時数の確実な確保を図りながら、ここフランスでしか経験することのできないこれらの貴重な体験・交流活動とのつながりについてESDの視点で何のための活動であるか価値づけ、パリ日本人学校の派遣教員としての誇りを持ち、国際人の育成を図っていく必要がある。